

ベトナム人日本語学習者のソーシャルメディア利用状況

平山花菜絵(北海道大学大学院生)

1. はじめに

近年、学校教育機関外での学習を指すインフォーマル学習(OECD, 2011)が注目されている。インフォーマル学習には、豊富な機会があり、生涯学習につながる可能性もある。日本語学習者の中にも、そうしたインフォーマル学習を行っている学習者がいることが考えられる。日本語のインフォーマル学習には、様々な方法があることが推測できるが、その1つにインターネットを利用した学習があり、これまで様々な調査が行われてきている。ここでは、日本語学習者のインターネット利用率の高さ(伊藤他 2016)や、インターネットを駆使し自律的に学習する「インターネット上の新自律学習者」の存在も指摘されている(吉開 2014 等)。

また、インターネットでは、様々な日本語学習サイトも作成されており、そうしたサイトを活用する学習者もいると考えられるが、学習サイトだけでなく、ソーシャルメディアを用いて自発的に学習する日本語学習者もいる。ソーシャルメディアとは、インターネットを利用して誰でも手軽に情報を発信し相互のやりとりができる双方向のメディアのことを指す(総務省 2015, p.199)。平山(2015, 2016)では、教室外で自発的にソーシャルメディアを用いて日本語をし続けた学習者にインタビュー調査をしたところ、彼らには交流や情報共有の他にも日本語学習の目的があり、彼ら自身も日本語を学ぶことができたと評価していることがわかった。使用方法としては、投稿する際に、新たに語彙や表現を調べることで知識を得たり、読み手のことを考えたりしながら文章を考え投稿したりしていた。また、他の人の投稿を見る際には、様々な人の投稿を読むことで語彙・表現や自然な日本語を学んだり、自分に必要な情報かどうか批判的に考えながら情報を得たりしていることがわかった。このようにインフォーマル学習としてソーシャルメディアの利用が考えられるが、日本語学習者にとってソーシャルメディアがどれほど身近な存在であり、どれほどの学習者がソーシャルメディア上で日本語に触れているのかはわかっていない。そこで、本研究では、ソーシャルメディアを用いた日本語学習者に注目し、ベトナムのハノイの日本語学習者を対象とし、ベトナム語を含むソーシャルメディアの利用と日本語での利用の状況を調査した。

2. 調査方法

本調査では対象地をベトナム・ハノイにしぼり、ソーシャルメディアの利用状況を詳しく調査した。ハノイについては、伊藤他(2016)の日本語学習者を対象としたインターネット利用の調査では、シドニー、ロサンゼルスといった他の国際交流基金の所在地に比べ、ハノイは特にソーシャルメディアの利用が高いことがわかっている。

本調査の対象者は、ハノイの大学や日本語学校に通う日本語学習者 196 名である。2015 年 3 月に発表者が教育機関に行き、教育機関の担当者と学生に許可を得た上で、彼らに日本語の使用も含むソーシャルメディアの利用状況について、ベトナム語による質問紙調査を実施した。

2.1 対象者概要

対象者の年齢は、主に十代後半から二十代前半である(図1)。この対象者の中には、働きながら日本語学校に通う社会人も含まれている。また、日本語学習歴は、約2年以下である学習者が多い(図2)。来日経験に関しては、あると答えた対象者が約11%いた(図3)。日本語能力試験については、N2を取得しているのが7%、N3が13%、N4が16%、N5が9%と続いていた(図4)。

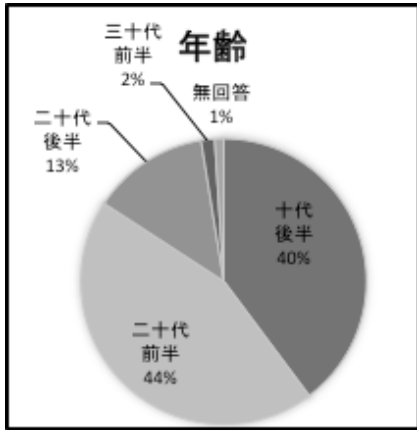


図1 対象者の年齢の割合

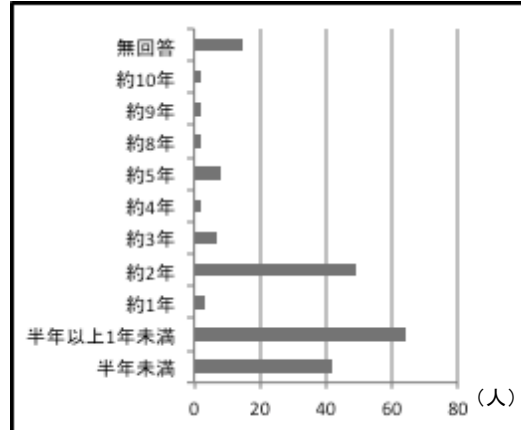


図2 対象者の日本語学習歴

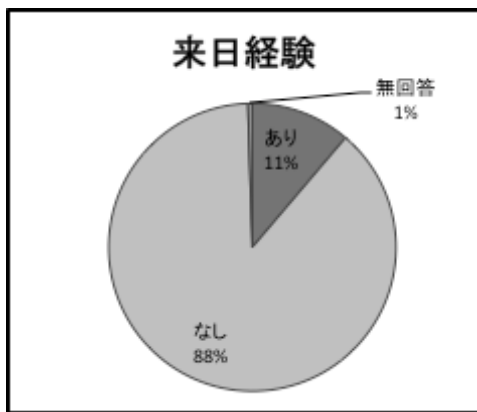


図3 対象者の来日経験の割合

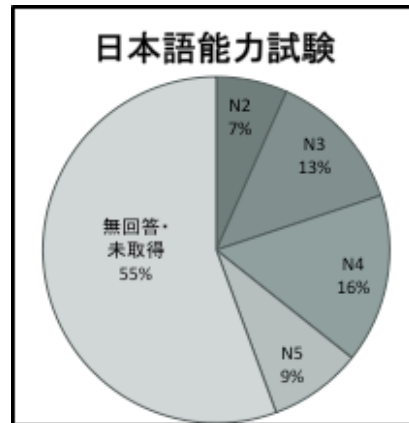


図4 対象者の日本語能力試験取得者の割合

3. 調査結果

調査は、①ベトナム語を含むソーシャルメディアの利用について、②日本語を含むソーシャルメディアの利用について、という大きく分けて2つのテーマから行った。

3.1 ベトナム語を含むソーシャルメディアの利用について

まず、ベトナム語を含むソーシャルメディアの利用は196名中約94%の184名が行っていた(図5)。この利用率の高さは、伊藤他(2016)のハノイでの調査ともほぼ一致する。

そして、利用者184名は、Facebook(約99%)、Instagram(約20%)、Twitter(約14%)を利用していた。最も多かったFacebookを利用する者のうちその利用頻度は、1日1回は利用するものが約86%いることがわかる(図6)。その中には1日5,6時間もソーシャルメディアを利用するというヘビーユーザーもいた。

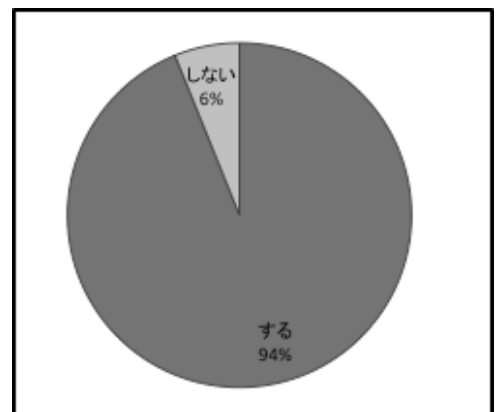


図5 ベトナム語を含む
ソーシャルメディア利用率

以上のことから、ソーシャルメディアはベトナム人日本語学習者にとって非常に身近なものであることが考えられる。

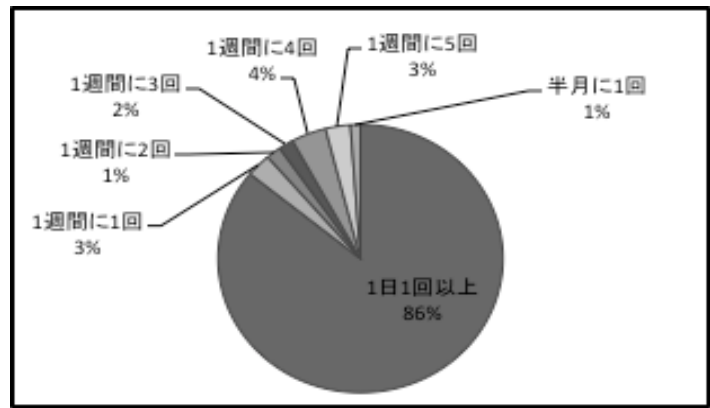
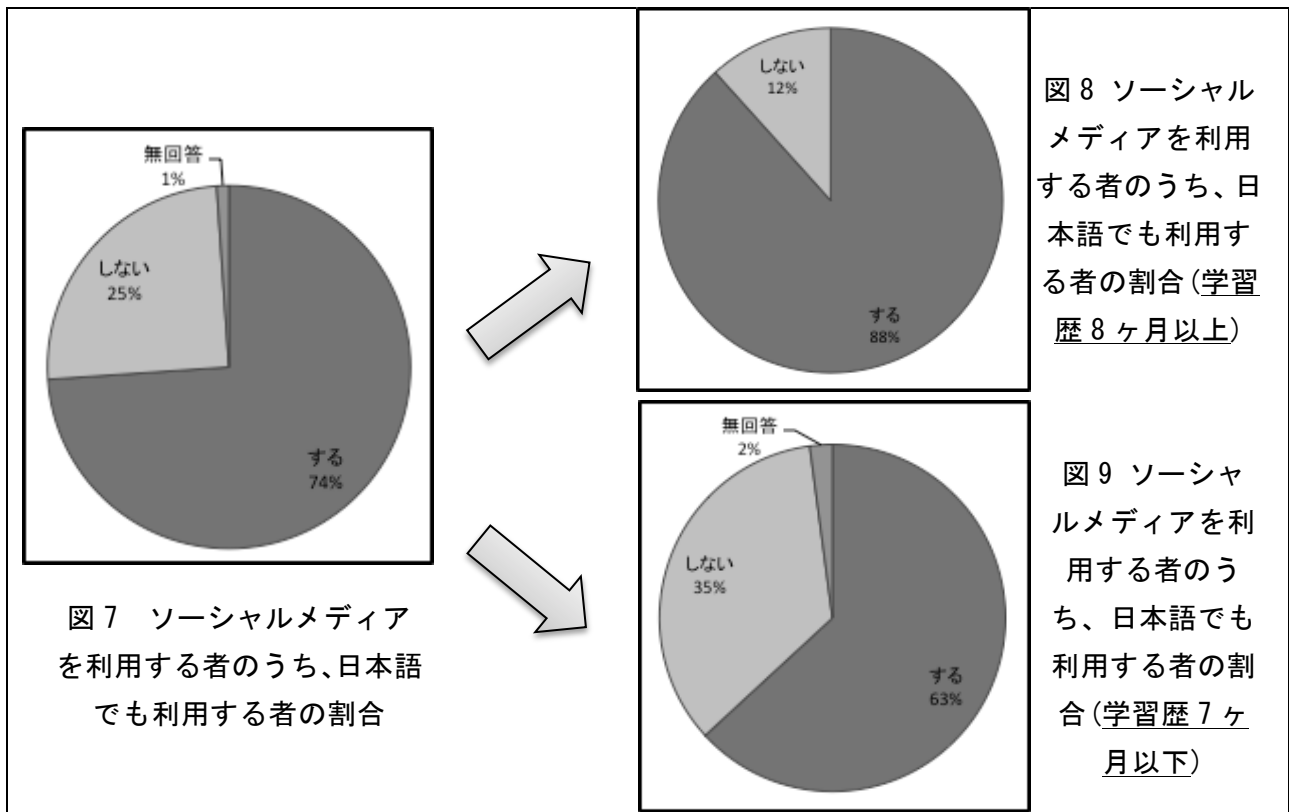


図 6 Facebook 利用者の利用頻度

3.2 日本語でのソーシャルメディアの利用について

次に、日本語でのソーシャルメディア利用について調査した。この1年で、ソーシャルメディアを用いて日本語を使用したかを聞いた。その結果、ベトナム語でソーシャルメディアを利用する者のうち、184名中74%の136名が使用すると答えた(図7)。特にその中でも日本語学習歴8ヶ月以上の者は、日本語での使用が多く、88%が日本語でソーシャルメディアを利用していた(図8)。それに比べ、日本語学習歴が7ヶ月以下の者は利用率が63%とやや低かった(図9)。日本語学習期間が8ヶ月程度を超えると、ソーシャルメディアという教室外の場でも日本語学習者には日本語に触れる機会があり、学習者自身もその機会を求めていっている可能性も考えられる。



また、日本語で利用する者がよく使う媒体として最も多く挙げられたのも Facebook であった。そして、彼らのソーシャルメディアの日本語使用の目的については、娯楽、友人や日本人との

コミュニケーション、情報共有、日本語能力の向上、日本の文化の勉強が挙げられた。日本語使用の利点は何かという問いには、読解能力や語彙の知識に加え、漢字を見慣れるようになった、日常会話の勉強になった、日本語への反応速度が上がったなどの日本語能力向上といったことがあり、日本語のインフォーマル学習をしている可能性が考えられる。また、日本語学習者や日本人の友人ができた、日本人と話せた、情報共有ができたなどの評価もあり、日本語学習だけでなく、関係作りも行っていると考えられる。そうしたソーシャルメディア上のつながりについては、同級生、クラブ・サークルの友人、日本人を含む外国人、先生、ネット上の友人といった人とつながっているようであり、そうした同級生などの他の日本語学習者、日本人といった人物とベトナム語だけでなく、日本語で交流している可能性もある。

4. まとめと今後の課題

以上の結果から、ハノイの日本語学習者にとってソーシャルメディアでの日本語の利用は非常に身近なものになっており、今後もソーシャルメディアを活用した日本語学習の調査や研究が必要だと考えられる。しかし、今回の調査では、ベトナム人学習者の具体的な使用はわかっていない。ソーシャルメディアが多くの人にとって日本語に触れる機会になっていることが示唆できるが、どのような使用をして、それがどのような学習につながっているのかはわかっていない。今後はベトナム人学習者の個別のケースについても調査する必要があると考えられる。

また、こうしたソーシャルメディアを通じたインフォーマル学習の可能性が考えられることから、今後の課題として、日本語教師の役割の模索が挙げられる。日本語教師は、教育機関でのインフォーマル学習でも、ソーシャルメディアをはじめとするインターネットでの日本語のアクセシビリティを高めるための指導を行うなど、インフォーマル学習への配慮をする必要もあると考える。

【参考文献】

- 平山花菜絵(2015)「Twitter を自ら使用し続けた学習者の目的と効用」『The 6th International Conference on Computer Assisted Systems for Teaching & Learning Japanese (CASTEL/J) Proceedings』 pp.111-114
- 平山花菜絵(2016)「日本語学習者によるソーシャルメディアを用いた日本語使用のケーススタディ」『ソーシャルネットワークワーキングアプローチと日本語教育 當作靖彦氏のセミナーと研究発表会 プログラム』 p.9
- 伊藤秀明・石井 容子・武田 素子・山下 悠貴乃 (2016)「日本語学習者のネット利用状況と学習サイトへの期待 -海外 11 拠点の調査結果から-」『国際交流基金日本語教育紀要』12 号、 pp.97-104
- OECD (編著) 山形大学教育企画室 (監訳) 松田岳士 (訳) (2011) 『学習成果の認証と評価: 働くための知識・スキル・能力の可視化』 明石書店
- 総務省 (2015) 『平成 27 年度 情報通信白書』
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/27honpen.pdf> 最終アクセス日 2016 年 8 月 11 日
- 吉開章 (2014)「日本語学習者の学習意識における学習者本人と日本語教育者・一般日本人の認識の差:「インターネット時代の新自律学習者」が日本理解・日本コンテンツ/製品消費の主役に」『第 10 回国際日本語教育日本研究シンポジウム予稿集』 香港日本語教育研究会、 pp.504-508
https://www.dropbox.com/sh/gz9xb2dyta229ra/AABMVhk_dX56B1w5f6DGD3gWa/YOSHIKAI%20Akira%EF%BC%88%E5%90%89%E9%96%8B%E7%AB%A0%EF%BC%89.pdf?dl=0 最終アクセス日 2016 年 8 月 11 日